

しおさい通信

No. 1 1 3

令和4年3月号

指定就労継続支援B型事業所しおさい

三崎：銚子市三崎町 3-82 TEL：0479-23-9012

春日：銚子市春日町 2058-1 TEL：0479-25-3475

HP：<http://npo-new.org/>

火災避難訓練実施

2月25日（金）、火災避難訓練を行いました。

◆しおさい春日・のぞみ合同訓練

午前9時半、湯沸かし室から出火したという想定で訓練を行いました。職員の指示で中庭に避難して点呼を行い全員の無事を確認しました。訓練の最後に、春日職員の松島さんが、のぞみの鴨理事長の代理として、講評を以下のように述べました。

いつもだと消防署の方に来て頂いて消火訓練を行うのですが、今年もコロナウイルスの流行で来られないということで、こういう形になりました。今回は30秒程でみんな外へ出て来ていますので、このくらいの時間で避難出来れば、命を守れると思います。こういう訓練を通して、何かあったら外へきちんと逃げられるようにして下さい。

◆しおさい三崎訓練

午前10時半、厨房から出火したという想定で訓練を行いました。職員の指示で駐車場に避難して点呼を行い全員の無事を確認しました。訓練の最後に、管理者の田村さんが、講評を以下のように述べました。

今日は訓練なので、上着を着たりしましたが、本当の火事になったら、自分の命を守ることでありますから、すみやかに避難して下さい。いつもでしたら、消防署の方に来て頂いて、いろいろ指導してもらっているのですが、コロナの件もあるので、自分たちでやることにしました。次回、状況が変わって消防署の方に来て頂ければ、消火器の使い方などを教えてもらおうと思います。訓練なので、あまり緊迫感がありませんが、こうした訓練をしておけば、本当に火事が起きた時に、すみやかに逃げられると思います。



▲春日・のぞみの訓練▲

▲三崎の訓練

餃子作り

毎週木曜日は「弁当の日」ですが、24日は中華弁当で、パン班のメンバーが餃子を作りました。

豚ひき肉、ニラ、キャベツ、玉ねぎなどが入った餃子のあんを皮に乗せ、縁<へり>に水を付けて包み、ヒダで固定してバットに並べて行きました。

この日は約200個の餃子を作りましたが、N. Aさんの感想は「あんを包んだ皮にヒダをつけるのが難しかった」とのことでした。お弁当には餃子の他に春巻、春雨サラダが盛り付けられ、お昼に美味しく頂きました。



2月26日撮影

愛宕山から見たダイヤモンド富士

← 午後5時半、太陽が富士山の山頂に沈んで行きました。感動的！！

富士山の反対側の低い位置から照らした太陽光が、富士山の手前にある霞<かすみ>に、富士山の形を縦長に投影していました。幻想的！！ →

2月25日撮影→



影の山頂の高さ——
本当の山頂の高さ——

『仕事に就いた先輩のお話を聞こう』③



一原孝弘さん

●一原孝弘(いちはらたかひろ)さんのお話

最初にしおさいへ通所していた頃のことから話しを進めて行くことにする。

まず、障害のことだが、今から12～3年ほど前、妻と小学校低学年の2人の子どもがいる状況でうつ病を発症した。その頃、仕事や私生活などでいろいろなことが重なり、それが積もりに積もって一気に爆発したような発症だった。退職して実家や自宅で療養して過ごし、無職の期間を経て就職したが、すぐに再発してしまい、就職と離職を繰り返すような状態で、しおさいに通所するまでの約8年間のうち6割位は無職の期間だったと思う。今はこの障害と付き合いながら日々生活を送っている。

平成28年5月にしおさいへ入所したが、そのきっかけは、親や家族から“働いて欲しい”という思いを感じて、このまま無職ではいられないなどの思いからだ。しかし、入所後も通うことや生活リズムを整えることが目的という考えで通所していたので、その頃はあまり就職については意識をしていなかった。当時もしおさいには就職に結びつく見学や実習の募集が来ており、一旦、申し込みはするが、辞退してしまうことが続いていた。その時に本音で思ったのは、このまま話しが進んで就職するのはイヤだなということだった。今考えればまだ就職するタイミングでは無かったのかもしれない。

入所して1年が過ぎようとしていた頃、職員の方から「一原さんだったら野外作業もやれそうだし、みんなのことも分かるだろうから」と声を掛けて頂き、平成29年8月に職員として入職した。通所者だったこともあり、障害のことも良く理解して頂いて、体調が悪ければ、上司や同僚の方に言って、オーバーワークにならないように調整させてもらっている。また、支援者としては、私も元通所者なので、現在通所している皆さんと同じ時間を過ごせたり、作業が出来るのがいいなというのを実感している。

大変だったこととしては、通所者から職員になった直後、自分より長く通っている方がいるので、私が職員になった時にどう思うのか、どう思われるのかということだった。しかし、働いてみると、そういうことを感じることもなく親しく接して頂いて、自分もいろいろな面で学ばされることが多いことを実感している。逆に良かったこととしては、自分で働いて給料が入るようになったことだ。これは自分にとってもプラスになったし、家族にとっても、これで社会復帰が出来たのかなと思ってもらえたので、一般就労という形ではないが、しおさいの職員として勤務出来たのは良かったと思っている。

最後になるが、皆さんに伝えたいことは、いかに自分の障害と付き合いながら社会生活を送るか、そしてその延長線に就職・就労、働いて自立するというのが結び付いて行くということだ。私自身今でもいろいろな波があったりして大変な時期もあるが、障害と付き合って生きている。

私は今、しおさいで勤務しながら、社会生活を幸いにも送れていて、当事者としての側面から、この相談事業のピアサポーターとして活動させてもらっているが、障害を発症したことに対しては、だから何？ 何も出来ないのか？という中で、自問自答しながら生活している。障害を持ったから何なの？ということだ。健常者と障害者というのは、ほんのわずかな違いだと思っているので、障害を持っているから何なんだという、反骨心のようなものを少しでも持てれば全然違うと思う。

就労というのは、そのタイミングだったり、様々な方法でたどり着けると思う。それがどんなに遠回りしてもだ。その為には、自分が障害や病気と向き合いながら仕事が出来るということを日頃から考え、日々少しずつ感じながら蓄積して行って、将来的に就職した時に活かすという方向に持って行ってもらえればいいと思う。

・質問

家族の方の病気に対する理解はあったのか？また、病気を受け入れるまで時間がかかったか？

・質問に対する一原さんの回答

しおさいに通う頃までは皆無だった。就職と離職を繰り返していたので「辞めぐせがついた」というように感じていたようだ。妻も理解というよりは納得から入ったようだ。妻が通院に同行した時に、主治医に就職について質問をした所、再発のリスクが高いことを指摘され、今は就職よりも就職に向けた支援事業所への通所を勧められ、しおさいへ通所することになった。しおさいに入所した後も妻は不安感があったようだし、今でも会話が少なくなると「具合が悪いの？」と聞かれる。現在は家族と両親に障害のことを理解してもらえたので、上がってしまって話し過ぎの時や会話の声が大きくなっている時は、ストップをかけてくれるし、逆に元気や食欲がない時などは、心配してくれたり、場合によっては、そっとしておいてくれている。

一番印象に残っているのは、ラインの既読が付かない、返信が来ない、帰宅が遅いという時は、今でも一瞬不安な思いがよぎると妻から言われる。ですから、私自身はもちろんのこと、家族にとっても、この障害とは一生関わって行かなくてはいけないものとなった。

私の場合、家族に障害のことを理解してもらえるのに7年位かかった。

～編集後記～

今号では、昨年12月に行われたピアサポートの学習会で発表して下さったしおさい職員の原孝弘さんのお話の要約を掲載させて頂きました。お話を聞いて、一家の大黒柱として家族の生活を守らなくていけないのに、それが実現出来ないというもどかしさや悔しさ、そして家族に対する思いが伝わってきました。お話の中にも出て来た「何で？何で？」という思いがずっと心の中にあっただと思います。前向きに障害と付き合っているのだと思います。